学校だより

（９月号）

http://www.edu.city.yokohama.jp/sch/es/shimonoba/

２０２３年　８月２８日

No. ４８６

横浜市立下野庭小学校

UDデジタル教科書体　開発物語
～『奇跡のフォント』を読んで感じたこと～

校長　黒木　英晴

職員室の窓の外には、４年生が世話をしているゴーヤとヘチマの緑のトンネルができ、ゴーヤの実が色鮮やかなオレンジ色へと変化していることが楽しめます。また、５年生が育てているお米は鳥たちから食べられないように網がかけられその中をすくすくと育っています。閉庁期間を除き、水やりに来た子どもたちは職員玄関に置かれているホワイトボードに「宿題終わった？」「今日は暑いので気をつけましょう。」などの伝言が書かれていてみんなで育てているという子どもたちのつながりを感じます。３８日間の夏休みを子どもたちはどのように過ごしたでしょうか。登校してくる子どもたちや校長室に遊びに来る子どもたちに聞いてみようと思いますが、子どもたちが元気に過ごすことができたのも保護者の皆様や地域の皆様のおかげと深く感謝しています。ありがとうございました。まだまだ残暑が厳しそうですが、子どもたちの体調管理をどうぞよろしくお願いいたします。

この夏休みに、帯に「足掛け８年　教育現場で大活躍しているフォントを作った書体デザイナーの情熱の物語!!」と書かれた『奇跡のフォント』（高田裕美著　時事通信社）という本に出会いました。学校だよりのフォントは、ある時期から読み易くなるようにと、UD（ユニバーサルデザイン）のフォントに変更しています。そんなこともあり、この本に興味をもちました。フォントとは、パソコンで使えるよう、デジタル化された書体のことで、書体とは、同じコンセプトでデザインされた文字の集まりのことだそうです。その書体を開発するのが「書体デザイナー」という仕事だそうです。あまり聞き馴染みのない仕事です。筆者がなぜUDデジタル教科書の開発を始めたかというと、特別支援学校でロービジョンの子どもたちが苦労する姿を実際に目の当たりにしたからだそうです。UDの開発を進めていたそうですが、学校における文字の「とめ・はね・はらい」などが分かるような書体になるように工夫をした教材を作成している先生方の存在を知り、フォントの開発に乗り出したそうです。構想から８年、完成までの苦労がこの本には書かれています。この本を通して、読むことに苦労している子どもたちはこんなふうに文字が見えているのかとか文字の見分け方がこんなに難しいのかと改めて気付かされました。今見ていることや感じていることが当たり前ではなく、いろいろな見え方があることを知り、フォントの作成に苦労されていることを知りました。そういう意味では、子どもたちの一人ひとりの文字は世界に一つしかないフォントだと思いました。タブレットを使いながら学習を進めていますが、時には自分で文字を書くということも大切にしていきたいなと感じました。この本の中には、アルファベットの書体のことも書かれていてたいへん興味をもちました。日本語よりもアルファベットの方が、形が単純なだけ文字を区別することが難しいということです。文字によっては数字に似ていることもあります。今は、小学１年生から英語活動を行っていますが、私は中学１年生になって初めてアルファベットの書き方を習いました。英語の練習帳には、等間隔の４本の線が書かれていて３つの空間の中に練習していました。ところが、今は５：６：５や５：９：５の４線比率だそうです。まちを歩いて、アルファベットをよく見ると真ん中が大きく書かれていることに気付かされます。この本を読んでまちにあふれている文字をみると違った視点でみることができ、書体デザイナーの人たちの工夫が分かります。まちを歩く時に、このような視点で文字をみてみると面白いです。

さあ、子どもたちとの学習が始まります。今年のスローガンは、「かっこいい　しものばっ子」です。日々の学習や様々な行事を大切にしながら、生き生きとした子どもたちの活動を全職員で支えていきたいと思います。

＜マーチングバンドの様子＞

８月２６日(土)に武蔵野の森総合スポーツプラザで行われた「ジャパンカップ」に出場し、優勝することができました。大会に向けてたくさんの練習を乗り越えた部員は、たくましく成長しました。

９月２３日(土)には、秋葉台体育館で行われるマーチング祭で演奏・演技します。今年度も、応援し支えてくださる方への感謝の気持ちを忘れずに全国大会出場を目指して練習に励みます。引き続き応援お願いいたします。

《９月の活動予定》

９月２３日（土）　　マーチング祭（秋葉台体育館）